

## 保健問題と農民の心

上市厚生病院 越山健二

今日、保健問題が、大きな政治課題となりその対策がいろいろ構ぜられている。それは医療費の問題であり、医療供給体制の問題であり、技術の均等化であり、医学教育の問題等々、各方面から論議されてはいる。これ等の問題はもちろん重要な事ではあるが、これだけでは完結しない重要な問題がある。それは、保健医療にとって最も欠落していると思われる「農民の心」とでも言うべきものである。健康や生命の維持増進は先ず自分で守る自己責任がある。家庭で養護すべきもの、地域社会で守る、社会責任がある。大きな経済発展、技術革新の中で私共は、ややもするとこの事を忘れ、論議の中心が大きく外れているようにも思う。私は国や行政の責任を否定するものではない。まだまだ国や行政がなさなければいけない問題も山積している。しかし、人間が生きるための根本を抜きにして今後の医療はなりたたないと思うからである。しからば一体「農民の心」とは何であろうか。

命や健康の根元は緑である。大地の中の一つの種子が、太陽エネルギーと水によって緑が作られ、澱粉が合成される。それによってあらゆる生物の生命や保健が維持され、そこには複雑な生態系が形成され、お互いが共存、共栄の自然の法則がある。この緑を育てる人は第一次産業に従事する農民である。

黒々とした土地を耕し、種子をまき、それぞれの土地、気候に適した緑を育てる。その仕事の中で私共の祖先は独特の心と文化を造ってきた。緑は自然の恩けいであり、恵みで

あり、羨しみの心や、感謝の気持を育てた。一方、風雨や、寒冷、かんばつなど厳しい自然の中で、忍耐や、一人では生きられないという事がら、協力や連帯感のすべてを学習し、自然に対する畏敬の心を育てて来た。それは継続した日々の中で勤勉に働き、緑を作る事に生き甲斐を感じてきた農民の心であったと思う。それは理論や学問によって習得したものではなく、大地を耕す事によって肌で学びとったものである。

この様な農民の心は、今日の地域社会にとって最も欠落したものであり、私共の保健にとって最も大切な事のように思う。老令者の養護や、救急医療が、ますます増加が予想される。精神疾患対策にとっても、この心が基盤になれば如何なる対策も前進しないように思われる。

今日、農村は短期間の間に大きく変貌し、専業といわれる農家は富山県でも 2.8%と減少し、農家の多くは兼業となり、主婦農業・片手間農業と化し、農作業の様式も省力化、機械化が進み、人工肥料、殺虫剤の使用で農業の形態もすっかり変化し、農村にも工場が建ち、団地が出来あがり、核家族が浸出してきた。農業や農村の中で形成された農民の心は、もはや消失し、稀薄なものになりつつある事も否めない。

大きな経済成長、物質文明のもたらしたものは、暮しの豊かさをもたらした反面、大きなものをおきざりにしたようにも思われる。個人の保健は勿論、家庭や、地域の果たす責任

は稀薄となり、個々別々の孤立した孤独な人々の集まりと化している。この事は、もはや農村でとりかえす事が出来ない事なのであろうか。農業はもはや専業として成り立たないとも言われている。しかし、私は兼業でもよい、片手間でもよい、寸土の中で、自然の中

で、失われたものを肌で感じとり、それを基盤とした地域連帯の心を育てる事が、土地を所有する人たちの特権であり、それを第一次産業に関係ある人たちに期待したいものだと考えている。